

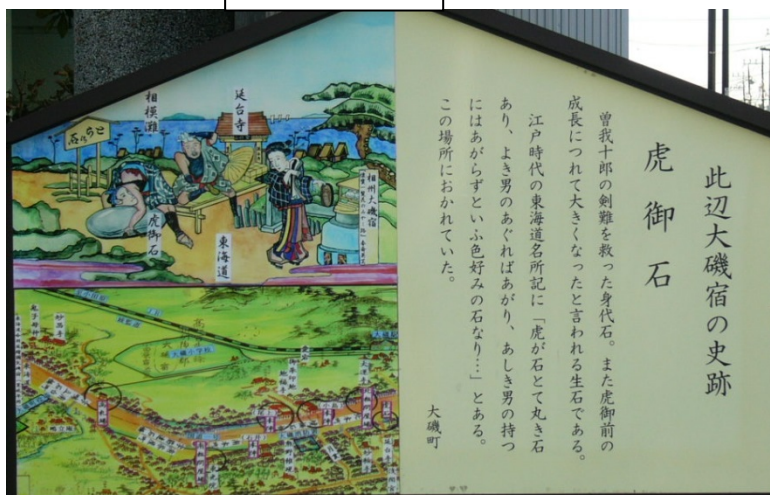
4 日目 大磯—小田原—(畑宿)

11 月 21 日(土) 8 時に大磯駅をスタート、天候は晴れ。

大磯宿 8 番目

ここも宿場遺構は何も残っていないが、見たいところが沢山あるので、宿場はパス。
歩き始めて直ぐに、虎御石のある延台寺、仇討で有名な曾我兄弟の兄貴の恋人の虎御前にゆかりの寺で、虎御前の成長と共に石も大きくなり、曾我兄弟の身代わりとなって矢をうけたとのこと、そんな伝説よりも「よき男のあぐればあがり、あしき男の持つにはあがらずという色好みの石なり」が面白く、持上げに挑戦しようと考えたが、大きな石でしかも囲いがあり、挑戦は断念。
近くに、新島襄終焉の地の碑があり、同志社大の設立者なので関西の人かと思っていたら、江戸生まれだそうで、脱藩して密出国し米国に行き学び、クリスチャンになり、帰国後は同志社を設立し、この地で病氣療養中に亡くなったとのこと。

虎御石の説明



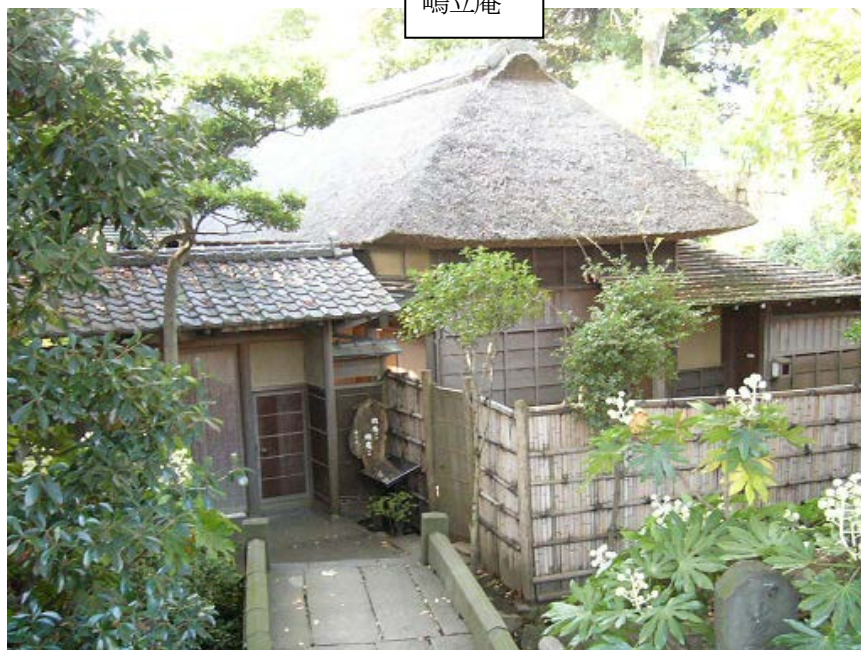
新島襄の碑



鳴立庵

5 分ほど歩いてお目当ての鳴立庵へ。
西行法師が「心なき身にもあわれはしられけり 鳴立つ沢の秋の夕暮れ」を詠んだ場所だそうで、江戸時代に俳人がここに庵を建て、以後は俳諧道場として使われたとのこと。
草葺の屋根の雰囲気の良い建物で中を見たかったが、見学は 9 時からとの案内板があり時刻はまだ 8 時半、見学は断念。

鳴立庵



芭蕉

大磯付近には江戸時代や明治時代の旧跡が多いが、明治の元勳達の屋敷あとや吉田茂の屋敷もすべてすっぽかして小田原へ急ぐ。

途中で湘南の云われを書いたものがあり、中国の湘南地方に似ているので付いた名前とのこと。

ガイドブックでは大磯を離れて小田原までの10Km程の間、名所旧跡は何も書かれておらず、ひたすら歩くことにしたが、途中で「芭蕉」を庭に植えている家を発見、小さい頃に郷里の宮崎では良く目にしたが最近全く見かけなくなっており、記念に写真。

芭蕉の有る家



東海道松並木

旧東海道の松並木がきれいに残っている箇所があり、更に進行正面には雪化粧の富士山。いいなあ!

旧東海道の松並木



大磯のはずれから見た富士山



大磯の隣に小磯の地名があったが、中磯は見当たらなかった。

昨日から冷え込み、今朝も寒かったので、厚手のシャツにセーターを着て、上着を着ていたが暑くなり、セーターは脱ぎ、上着は袖を捲り上げて歩く。

地名は二宮から国府津へ。

途中の小さな川の橋に何かのいわれがありそうな「血洗い川」との標識あり。

小田原の手前で酒匂川を渡り、二宮金次郎顕彰の碑で一休み、二宮金次郎はこのあたりの人だった。

近くに新田義貞首塚もあったが、駐車場の一角に、説明パネルのみ。

小田原郊外で昼食、本日はうな重。

小田原宿 9番目

小田原市内にはいると、観光スポットが多いせいか観光客がぞろぞろ歩いてるが、先を急ぐ身としてはH氏推奨の小田原城のみを見物。丁度ウォーキングフェスティバルの最中で小田原城内はゴール地点となっており、ゼッケンを付けた人で城内は大混雑。しかし、おかげで甲冑姿の武士団(&薙刀鉢巻の女性も)との写真サービス有り。



箱根路へ

小田原を出ていよいよ箱根路。車で渋滞中の横を緩やかな坂道をあがってゆくと「風祭」の地名あり、確か風魔小太郎の小説にでてくる地名でこのあたりが風魔の本拠地か。ところどころ歩道が無く、車が渋滞していなかったら歩くには身の危険を感じそう、しかし、渋滞中の車よりは早いスピードで登り、箱根湯元に到着。箱根湯元でコーヒーブレーク。本日は箱根湯元到着を目標にしていたが、時刻はまだ2時半、まだ4.5Kmは歩けると、北條早雲の菩提寺である早雲寺を見てから本格的な箱根路へ挑戦。

早雲寺



石畳の旧東海道

登っていくと、途中に昔の石畳道が残っている脇道があり、そこを歩いてみたが、現代の感覚では石畳ではなく大きな石ころの道で、歩きにくいことこの上ない。



曲がりくねった坂道でしかも歩道がなく、車が来ると側溝の上に乗ったり、ガードレールに体を押し付けたり、山際に避けたりの難行。

「女ころばし坂」と穏やかではない名前の坂を登り、曾我兄弟があだ討ちの前に試し切りにした石のある割石坂を登り、4時に畑宿に到着、本日のゴールとする。

割石坂の石碑



これで箱根の登りの半分はこなしはす。
本日歩いたのは丁度5万歩で距離は約35Km。
次回はいよいよ箱根越え。

4日目

